



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 25-05

11月号

発行 2022年11月23日

Chartered 1998

会長 山本 剛史郎
副会長 松川 厚子
会計 吉田 公代
書記 吉野 勝三郎

クラブ会長主題 「温故知人」「明日に向かって新しい出会いを！」
国際会長 Samuel Chacko (インド)

主題 Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT

(フェロシップとインパクトで次の100年へ)

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen(台湾)

主題 “Elegantly Change with New Era”

(新しい時代とともに、エレガントに変化を)

東日本区理事 佐藤重良 (甲府 21)

主題「未来に向けて今すぐ行動しよう」

関東東部部長 工藤大丈 (ベイサイド)

主題「新規技術(テクノロジー)を縦横に 駆使し、効率を重んじる。

すべては、プレミアムな価値と体験を産むために」「成せば、成る」

“No challenge, No fruit”

11月の聖句

聖書

そればかりでなく、苦難をも誇りとしています。苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生むことを知っているからです。

この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

ローマの信徒への手紙 5章 3～5節

Not only so, but we also glory in our sufferings, because we know that suffering produces perseverance; perseverance, character; and character, hope.

And hope does not put us to shame, because God's love has been poured out into our hearts through the Holy Spirit, who has been given to us.

Rom 5:3~5

巻頭言

希望の鐘

最近、ワイズメンズクラブでお世話になった方々の訃報が続きました。人が亡くなったという知らせは悲しいものではありませんが、それが近親者や親しい友人、知人である場合はその衝撃は言うまでもありません。しかし、それでもいつまでも悲しみに沈み、立ち直れないようではこの世の中で生きていくことはできません。私たちが生きていく世の中には死、病気、災い、不安、不幸な出来事が満ち溢れているからです。

私の好きな讃美歌の一つに讃美歌 399 番「悩む者よとく立ちて」があります。その讃美歌は 1～3 節まであるが 3 節とも「天の力に癒しえぬ悲しみは地にあらじ」という言葉で終わります。ちなみに 1 節の歌詞は次の通りです。

悩む者よ とく立ちて
恵みの座に 来たれや
天の力に 癒しえぬ
悲しみは 地にあらじ

元はアイルランドの詩人トマス・ムアの詩であるらしいが、「天が癒すことのできない悲しみは、この地上にはない」“Earth has no sorrow that heaven cannot

2022年9月・10月の統計

在籍 9 名 出席者 9 月 (7 名), 10 月 (7 名) 出席率 78%

heal”という力強い言葉で終わっています。私自身、この言葉によって何度も慰められたことがあります。この川越ワイズメンズクラブのブリテンも「希望の鐘」というタイトルですが、どのような状況にあっても悲しみや不安の渦に沈み続けることなく、希望を持って生きていきたいと思います。

紅あか緊急連絡

山崎純子

困ったことに今年の出来具合は悪く、当初予定していました50箱は無理との連絡が栽培農家からありました。何とか30箱は出来ないかと交渉した結果、30箱は努力してくださるとのことになりました。

そこで、現在までにご注文いただいたものは発送するように手配いたしますが本日をもって注文は停止いたします。大変残念ですが農作物はこのようなことも起きるかと思います。

チャリティーランの賞品は保証いたしますが新たなご注文は控えていただきたく御連絡いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。“

チャリティーランに参加して

生川美樹

11月3日（文化の日、木）、秋晴れの澄み切った青空の下、3年ぶりに所沢航空公園にて、“第23回埼玉YMCA インターナショナル・チャリティーラン2022”が開催されました。絶好のマラソン日和に、子供達だけでなく、大人たちも走るのが待ちきれない様子で、会場に集まっていました。

みんなの大好きなお肉体操でウォーミングアップを行い、今年のチャリティーランがスタートしました。

今年のチャリティーランには、川越ワイズメンズクラブからは、AとBの2チームがエントリー。わいわい食堂からも、1チームのエントリーがありました。川越クラブのAチームは、第一走者の増田虎太郎君（川越クラブの吉田さんの甥御さん）が大人に負けない素晴らしい走りをしてきて、上位で第二走者の生川がタスキを受け取り、何とか第三走者へタスキを渡しました。第三走者からは、当日、体調不良で欠場となった山本ファミリーにかわり、YMCAの若きスタッフやリーダー達3人が全力で代走をしてくれました。終わってみると、18チーム中5位という見事な成績を収めることが出来ました。Bチームも、健闘して、9位という結果になりました。団体種目の後に行われた個人

種目では、利根川夫妻が仲睦まじく歩いてゴールされる姿が印象的でした。

会場では、所沢市鍼師会の方々が、鍼灸体験会を行ってくださり、私も走る前に鍼を足のツボに貼っていただいたお陰で、無事に走る事ができました。

ステージ上では、地元の小学生たちによるチアダンスのパフォーマンスや、ボッチャの体験会なども開催され、とても賑やかな大会になりました。コロナ渦が終わらない中、所沢航空公園でのチャリティーランの実施は、事務局のスタッフ皆様は、準備に苦労されたと思いますが、当日会場に集ったみんなが楽しむことのできた、とても素晴らしい大会でした。

川越祭りクリーン活動

吉田公代

川越市市政施行100周年を記念した川越祭りが10月14日15日の両日に開催されました。

コロナ禍の3年間は開催が見送られていました。今年には市政施行100周年記念ということで、全山車の参加と、盛大なお祭りとなりました。

そんな中、私たち川越クラブは、クリーン活動を行うということで、（ちょっと込み具合は半端じゃないし、無謀じゃないと思いつつ）山本会長とそのファミリー、利根川夫妻、生川さん、河合さん親子、吉田とそのファミリーが参加しました。おそろいの黄色の目立つベストを着こみ、ごみ拾いグッズを持ち、準備万端です。

しかしながら川越市もごみ対策が万全で、至る所に種類別のごみ箱が配置され、その担当者も張り付いていました。そう言う訳で、ごみの収穫はほとんどありませんでした。



同じ目的を持って行動をすることは、更に一体感が

出来て気持ちが充実し、歴史の深みを感じるお祭りを、見ながら聞きながら、楽しい時間をワイズの仲間と過ごすことが出来てちょっとした、幸せを感じました。

Thank You

わいわい食堂報告

利根川恵子

去る10月30日《土》10時30分から13時まで、埼玉YMCA川越センターで3ヶ月ぶりにわいわい食堂を開催することができました。残念ながら、広報が十分ではなく、3名の申込みがあったものの、当日はいつも参加している4年生の男子2名のみでの参加となりました。

今回は、ハロウィーンの前日ということで、500mlのペットボトルにハロウィーンの飾りを貼り付け、ボーリングのピンを作成して、参加者2名のボーリング大会を行いました。2階の廊下をレーンに見立ててのボーリングでしたが、参加者は1対1の対決に燃えていました。

昼食もハロウィーンをテーマにしたチキン・クリームシチュー、とろけるチーズで包んでゴーストに見立てたポテト、わかめご飯、ブロッコリー、キャベツ、イワシ缶、ゆで卵にデザートはカボチャプリンでした。

参加者の小学生から、人数が少なくてもさみしいけれど、わいわい食堂が始まってうれしい、次回も来たい、と応援のコメントもあり、今後への励みになりました。

次回は11月27日《日》で、スタッフは9時30分集合です。内容はお天気が良いことを願って、思い切り外遊びとなっています。遊びの達人のYMCAリーダーの応援を依頼しております。



古書再読報告—その2—

山本剛史郎

前号のブリテンにおいて2022年10月2日に行われた「アースデイ川越 in 昭和の街 2022」の報告が載せられましたが、その報告の続きです。

アースデイ川越に参加してくれた芝浦工業大学の学生のレスポンスペーパーを公開してくれましたが、その中で川越ワイズメンズクラブの「古書再読」についての高評価の感想が書かれていたのでお知らせし

ます。

①特に印象的だったのは古書を無料で提供するもので、そのほかに募金やエコバッグの販売も行っているものだった。扱っている本はかなり大人向けの小説や英語で書かれた本が多かったが、こうした無料という形をとることで小学生にも手に取ってもらうことができるのではないかと思った。これはSDGsのゴール4の質の高い教育をみんなにの達成にも貢献しているのではないかと感じた。自分個人の感想としては目的をもって手に入れた書籍よりもこうした機会に偶然手に入れた書籍は思い出に残るのではないかと思い、こうした活動を続けていただきたいという思いで寄付を行った。基本的に無料であるという形態をとることで誰でも触れやすいという大きな利点があるということを学ぶことができるいい機会だった。

②川越ワイズメンズクラブ様のところにお邪魔しに行ったのですが、多くの読まれなくなった古本を取り扱っているブースで接客をしてくれたスタッフの男性の対応と話し方がとても魅力的なブースでした。私は、ソロモンの偽証の1、2、4、5、6巻をいただけてとても満足しました。

11月例会報告

山本剛史郎

2022年11月12日(土)川越ワイズメンズクラブの例会を行いました。参加者は(敬称略)生川美樹、河合今日子、利根川恵子、利根川太郎、山崎純子、吉田公代、山本剛史郎で、卓話者は長谷川洋輔さん(横浜YMCA職員、現埼玉YMCAに出向)でした。

卓話は長谷川さんに「私とYMCA」というタイトルで、横浜YMCAに入職したきっかけ、横浜YMCAでの放課後等デイサービス(学童)での働き、そして埼玉YMCAに出向してきて感じたことなどを話してもらいました。湘南学院高校野球部で活動、桜美林大学でも草野球をやるなどスポーツを続けてきたのですが、YMCAには就職活動の時に偶然にも合同説明会で話を聞いた時に、「子どもと触れ合える」「スポーツを教えることができる」という言葉に(本人の言葉を使うと)ビビビと電撃が走ったように衝撃を受けて、自分のやりたいことはこれだと思い、横浜YMCAに入

職したそうです。それから7年間、放課後等デイサービス(学童)で働き、2022年に埼玉YMCAに出向になりました。横浜YMCAと埼玉YMCAとでは働き方、物事の決め方のスピードなどにいろいろと違いを感じたそうですが、それは規模の違いによるものだと思います。YMCAキャンプやリーダーなどの経験がなく、就職活動時に初めてYMCAに触れ合い、その存在を感じたということで、YMCA職員としては珍しい形かもしれませんが、YMCA活動に熱を感じる卓話でした。

12月10日(土)の例会は利根川恵子さんにワイズメンズクラブの国際・アジア太平洋地域状況について卓話をしてもらいます。



国際の舞台から

“Keiko’s Monthly Briefing of YMI/ASP”

利根川恵子

11月4日に開催されたアジア太平洋地域第1回四半期議会において、2023年8月、香港での開催を予定されていた第30回アジア太平洋地域大会ですが、**2023年11月3日(祝・金)～5日(日)、香港 Nina Hotel**を会場として開催されることが決まりました。

これは、台湾・台北で行われるワイズメン国際協会100周年記念祝賀行事が2022年11月から2023年3月10日(金)～12日(日)に延期されたことをうけ、半年の間に2回の大きな国際大会に参加することはメンバーにとって難しいであろうとの配慮によるものです。

また8月同時期に香港で開催予定であった、アジア太平洋地域ユースコンボケーションは、時期はかわりませんが、香港の物価高を考慮し、**ネパール・ポカラ**に場所を変更することとなりました。ポカラはネパール有数のリゾート地で、ヒマラヤ山脈を望む大自然に囲まれたAYCとなります。ネパールはユースクラブが4つチャーターされ、ユースの活動も活発なことから、開催地として選ばれました。

地域大会もユースコンペーションも、私が地域会長の任期中に開催される大きな行事です。みなさまのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

YMCA報告

【第23回埼玉YMCAチャリティーラン】

11月3日晴天の中、第23回埼玉YMCAチャリティーランが開催されました。



1987年に国際賛助会（FCSC）主催の全国初のチャリティーランが東京で開催されて以来、現在は全国21か所で開催されるようになったYMCA国際ショナル・チャリティーラン。今年は、埼玉YMCAで3年ぶりに所沢航空記念公園で開催しました。「LOVE ON THE RUN」をスローガンにランナーやボランティアとして、それぞれの方法で（ラン・ウォーク）楽しく参加できるチャリティーイベントには、今年も川越ワイズメンズクラブの皆さまにたくさんの協賛品を提供していただきました。

皆さまから寄せられた支援金は、障がいのある子どもたちへのプログラム、災害等で困っている人たちへの支援に役立てられます。ご協力ありがとうございました。



【六本木先生によるスキー指導】

11月13日（日）所沢センターにて、スキーキャンプに向けてのセミナーを行いました。

当日は、埼玉YMCAの野外ボランティアリーダー、OBOG、スタッフが所沢センターに集まり、最新の子どものスキー指導について学び、理解を深めました。今後、各キャンプに向け、リーダー会、実技トレーニング、安全についての座学等準備を行い、キャンプ当日を迎えます。丸沼パウダースキーキャンプ・スキーざんまいキャンプは、まだ若干の空きがあります。お知り合いの方にもぜひご案内ください。

https://www.saitama-ymca.org/files/ugd/0a11cb_a3f6a719c45942d2a72561ce3a564df4.pdf



編集後記

ご心配をおかけしましたが、10月14日に退院して1ヶ月以上経ち、幸い、ほぼ従前の生活に戻っています。しかし、徒然草の“高名の木登り”にあるように、最後の所が肝心ですので、年末までは、家内と娘の監視の下で、慎重に行動する所存ですのでご理解下さい。

過日、友人が「80歳の壁」という本を紹介してくれて読みました。長寿社会の日本を象徴するように、この本は、今年3月に発売されて既に50万冊売れているそうです。いろいろと参考になる提言があります。70歳以上の方は、ぜひ読んでみて下さい。（KY）